

【雨の価値】

福岡県

北九州市立尾倉中学校

二年 宮本 侑

僕は、雨の日は嫌いだ。雨の日は傘をさして歩かねばならず、地面も濡れていて歩きにくい。そして、何より朝、家を出て空が曇って雨が降っている、気持ちよく一日を始められないことがとても嫌だった。だからその年は、雨の日は少なく快適に過ごせてとても嬉しかった。

ある日の夜、僕はスマホでゲームをしながら、ニュースを流し見していた。そろそろゲームをやめて寝ようかと思っていたときに、「ダムの大渇水」という話題にニュースが切り替わった。そのニュースでは、ある地域でダムが渇水し、水道が一時的に止まったため、役所までわざわざ水を受け取りに行く住民に取材をするという内容だった。僕は、生まれてから一度も水道がない生活なんて想像したことがなく、衝撃を受けて、気づけば手に持っていたスマホを机の上に置いてニュースに夢中になっていた。

後日そのニュースのことが気になって、ダムの渇水の原因について調べてみた。すると原因は「ここ最近の降水量の低下によるダムの水不足」つまり、「雨の降る回数が少なくなったこと」だった。これを知った僕は、雨が降らないことが原因でたくさんの人が困っているのに、自分は雨が嫌いという理由だけで雨が降らないことを喜んでいたことが恥ずかしくなった。

ダムの渇水のことについて調べていく中で平成六年に「平成の大渇水」と呼ばれる西日本を中心とした日本全国で大規模な水不足が起こったことがあることを知った。その当時は断水が行われた地域もあり、中には一日に四時間しか水道が使えない地域があったらしい。つまり、その地域では、食器洗いも、洗濯も、飲み水を注ぐのも、トイレを流すのも、一日に四時間しかできないときがあったということだ。そのような断水が行われた地域では、断水が始まる前に、あらかじめ水をバケツなどに溜めておき、皿を使うときには皿の上にラップを被せて洗い物が出ないようにするなどの様々な工夫をして暮らしていた。そんな、水が制限される生活が約一年も続いたのだ。僕がその当時に生まれて生活することなんて、とても想像できない。ダムの

渇水のことについて調べていくと、いかに今までの生活が恵まれていて、当たり前ではないことに気づかされる。

今まで僕にとって雨は、ただの空から落ちてくる鬱陶しい水でしかなかったが、雨は、僕たちの生活を支えてくれている大切な資源であり、なくてはならない存在だということに気づかされた。

それ以来、僕は手を洗ったり、シャワーを使ったりするときに、節水を意識するようになった。過去の渇水を知って、水のありがたみを知ったからだ。外を見ると、その日は雨だった。でも、なんだか嫌な気はしなかった。